

令和2年度 京都府立鳥羽高等学校定時制 学校経営計画(スクールマネジメント) (計画段階 ・ **実施段階**)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>自立につながる自律の力の育成</p> <p>授業を大切にし、生徒の能力を最大限に伸ばして、進路を保障する。</p> <p>1 基礎学力の充実に努め、中途退学や原級留置等の解消を図る。</p> <p>2 人間の尊厳という観点に立ち、人格形成を目指し、指導体制を確立し、組織的・計画的な指導を推進する。</p> <p>3 人権・帰国子女教育の推進を図るとともに全ての生徒の進路実現を図る。</p>	<p>成果</p> <p>1 中途退学や原級留置等の解消を図るため面談指導及び、学び直しを重視した。また、評価方法を生徒に分かりやすく改善して学習に集中しやすい環境づくりに努めた。</p> <p>2 立ち番や巡回指導を全教職員で当たり、生徒の変化や詳細な状況を教職員で共有し迅速な対応で、問題行動等の未然防止につなげた。</p> <p>3 各行事では、生徒会が中心となって全校生徒が取り組める企画を立案、実施し、生徒が積極的に参加することができた。</p> <p>4 企業や自立就労サポートセンター等の外部機関と連携をしながら、一人ひとりの能力・適性に応じた就職・進学指導が実施できた。</p> <p>5 人権教育では、法教育出前授業を活用して、労働問題と人権について考えさせる機会をつくることができた。</p> <p>6 中学校や外部機関と日常的に連携し、さまざまな課題を抱える生徒に対して効果的に指導することができた。</p> <p>課題</p> <p>1 日々の授業を大切にし、真面目に取り組ませるための指導の充実と、学習意欲を高めるための工夫。</p> <p>2 生徒が抱える多様な課題に対して、保護者、関係機関等と連携を図り、その解決に向けたきめ細かな多面的指導の実践。</p> <p>3 低学年からの進路学習の充実と、卒業後の進路に対する意識付け。</p>	<p>1 授業を大切にすることを指導実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の授業への出席や取組態度等が学習評価につながることを生徒に理解・実践させるとともに、前向きな取り組み姿勢の継続が、進級・卒業はもちろん卒業後の社会生活にも重要であることを意識させ、学習意欲を高める。 <p>2 教職員が一致して生徒を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員間で日常的に情報交換を行い、さまざまな課題を抱える生徒に対して早期に対応し、保護者、関係機関等との連携を図りながら、解決・改善に向けて丁寧で粘り強い指導を行う。 自他の人権意識を高めさせ、適切な学習環境を整えるための授業規律の確保に向けて教職員が情報を共有し、一致して迅速に対応に当たる。 <p>3 保護者や外部機関と連携しながら多面的に生徒を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習、生徒、進路、保健指導のあらゆる分野において、積極的に保護者や外部機関と連携しながら、生徒の具体的な成長と、課題等の解決に向けて指導を徹底する。 <p>4 生徒の就労意欲を高め、望ましい勤労観や職業観を養わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 仕事と学業との両立ができるように、生徒の就労状況調査及び就労支援を行い、就労率を上げる。 <p>5 4年後(三修制:3年後)を見据えた計画的な進路指導の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> 4年間(三修制:3年間)を見通した行事や分掌間で足並みを揃えた形の進路指導内容の検討を図る。 より広い視野で進路選択できるように、系統的に進路学習を行う。 卒業後の進路について、ミスマッチがないように進路選択をさせ、一人ひとりの適性・能力に応じた就職・進学指導の徹底に努める。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習指導	学習評価を含め、授業規律の確立に向けた指導体制を構築する	学習評価の実施方法の確立とさらなる改善に取り組む。授業状況報告用紙を活用し、各分掌と連携を図りながら、進級・卒業に向けた効果的な指導方法と体制を確立する。	B	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 態度点や活動点などの評価方法を全教科で一定そろえることができてきている。特に1年生に態度点やその仕組みを徹底して指導していくことが重要であり、指導の充実に向けて今後も工夫をしていく必要がある。授業状況報告用紙の活用や定期テストごとに面談を実施し、特に授業態度に課題がみられる生徒については面談を行い、丁寧に指導を行うことができています。 ここ数年日本語を母語としない生徒が増える中で、支援の先生方と共に一定以上の指導が行うことができたが、外国につながる生徒の学習指導・日本語支援の具現化の方策が課題である。
	個に応じた指導の充実による基礎学力の向上を図る	学業不振や欠課過多生徒に関する情報を日常的に共有するとともに、関係教員が密接に連携しながら指導を行い、自らの学習課題の克服に向けて自己を指導する態度を培う。	A	
生徒指導	集団活動をととして有意義な学校生活を送らせる	生徒会を中心として球技大会、体育祭、文化祭等各行事に積極的に取り組みせ、自己のアイデンティティや協調性を養い、存在感、充実感のある学校生活づくりに全校をあげて取り組ませる。	A	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教職員で始業前や休み時間に校内での立ち番指導を行ったことにより、個々の生徒の異変や生徒間の人間関係の変化に早く気付くことができ、問題行動の未然防止及び早期発見・対応に一定の成果があった。 授業状況報告用紙を活用して教科担当、教務部、学年部と緊密に連携し、私語や立ち歩きなど他の生徒に迷惑をかける行為について組織的・段階的な指導を行うことができた。 第1学年を対象に薬物乱用防止教室を行い、反社会的行動抑止に向けた取り組みの工夫をした。・各行事においては、生徒会が中心となって全校生徒で取り組める企画を立案・実施し、全校で行事に取り組む意識付けを行うことができた。
	問題行動・交通事故の未然防止ができる体制づくりを進める	生徒指導部を中心に教職員間で情報共有を行うとともに、全教職員で立ち番指導を行い、問題行動の未然防止に取り組む。また、教科担当や教務部、学年部と密接に連携を図り、組織的・段階的な指導によって生徒の人格的成長を図る。	B	
		薬物乱用防止講演会、喫煙防止教室、交通安全教室等を実施し、問題行動や交通事故の未然防止に努める。	B	
進路指導	希望する卒業後の進路を具体化させ、進路実現に向けての目標設定・目標達成の援助・指導を行う。	定期的に進路調査・面談、ガイダンスを行いながら、生徒の現状や進路希望を把握し、一人ひとりの能力・適性に応じた就職・進学指導を行う。	B	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者ともに納得する着地地点を検討するために定期的に進路面談を実施し、始業前・休み時間に声かけを行い、毎日、放課後、就職・進学指導を実施した。企業見学・オープンキャンパスを通じて、「自分の性格と職場・学校の雰囲気は合っているか」を考えさせることができた。今後も人事・入試担当と連携を図りながら、卒業生の訪問(22社)をする予定。 日常からの就労意欲を高めること、進学指導の充実を図ることが課題である。 卒業後の進路に対する意識を高めるために12月に二者面談、1月に三者面談を実施し、「あいまいな進路選択から、具体的にどのように進路実現していくのか」の検討を要する。 支援が必要な生徒・外国につながる生徒の就職・進学指導の体制を整備する必要がある。
		企業や自立就労サポートセンター等の外部機関と連携しながら、就労支援を行う。また、基礎学力の向上を図るために、他の分掌、教科と連携をして、卒業後の将来を見据えた進路学習を充実させる。	B	
人権教育	基本的な人権を尊重し、自他の人権を大切にする態度を養う	さまざまな人権や帰国子女・外国籍生徒の人権に関する講演会等を実施し、生徒の人権意識の高揚及び人権問題の解決に向けた自他の人権を尊重できる態度を養う。また、家庭と密接に連携しながら、個々の生徒の課題に応じた指導を進める。	A	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある人の人権問題とLGBTをテーマに講演を実施、ノーマライゼーションについて理解を深めることができた。 車椅子体験・高齢者体験を実施し、介護や福祉に対する意欲を高めるためることができた。 法教育出前授業を利用し、刑事事件・交通事故・労働問題の学習に取り組んだ。 外国につながるの子どもたちへの学習支援をテーマに教職員研修を実施し、在籍する当該生徒へのアプローチの参考となった。
保健・特別支援	健康の保持・増進に努める態度を養う	日常の健康観察や検診等を適切に実施し、「保健だより」の発行や性教育・薬物乱用防止教育などの講演を活用しながら、自らの心身の健康を大切にする態度を養う。	A	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症対策のため登校時の健康観察を学年と協力して実施し、健診は変則的な実施となったが、事後指導まで適切にできた。また、性教育、薬物乱用防止教育、コロナ学習等を通じ、自分や他人の健康を大切にする姿勢を養った。次年度も継続して自己管理ができるよう働きが必用である。 定期的な支援会議と、「個別の指導計画」検討会議を実施し、教職員間の共通理解と情報の共有を図った。また、スクールカウンセラーや外部機関等と連携をとりながら、助言を実践に活かそうと努力した。今年度、教職員研修会はコロナの関係で実施できなかったが、来年度以降可能な限り実施の方向で学びを深めていきたい。今後、「個別の指導計画」を活用した保護者との連携や、生徒の具体的な学力の把握・自律につながる力の育成など、細やかな検討を要する。
	支援を必要とする生徒の課題に応じた指導を行う	支援生徒について、情報の共有を課題やその手立てについて話し合う場を設定する。また、個別の指導計画の作成による個々の具体的な指導目標や指導内容の明確化を推進する。関係機関や保護者と連携を図りながら進級、卒業に向けたサポートを行う。また、教員の支援教育に対する理解を深め、意識向上を図るために研修会を行う。	B	
読書指導	読書習慣の定着を図る	「図書館ニュース」等の広報や読書週間の企画、内容の充実により、幅広い教養と豊かな心を育むための生徒の読書意欲の向上を図る。	B	図書委員による文化祭企画展示と読書啓発ポスター作成を行った。(展示部門特別賞受賞)。今年度はデジタルサイネージによる情報発信にも取り組んだ。今後さらなる広報活動を充実させたい。
家庭・地域社会との連携	家庭・地域社会・関係機関と積極的に連携する。	家庭への連絡や中学校との連携、PTA活動や学校ホームページ、関係機関等を積極的に活用して、学校・家庭・地域社会総がかりで生徒の教育にあたる。	A	新型コロナウイルス感染症の影響で、PTA関係の外部の活動は大きく制限されたが、学校行事には積極的に参加できた。また、学校ホームページを活用して、情報を積極的に発信することができた。
単位制・三修制	三修制の最終的な確認と、運営を行う。	三修制のより円滑な運営にあたり、その意義を計画的に指導し、ホームルームや授業の形態、修学旅行、卒業式等の行事や進路学習の持ち方などについての体制を確立する。	C	三修制の取組について円滑にすすめることができたが、ここ数年の生徒数の減少に伴い教育課程、開講講座、学力等を含め、三修制のあり方を考えなければならない。定時制の特質としてその年々の動向が大きく変わるため、軽々に判断できないところでもある。

評価の基準 A:十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校関係者評価委員会による評価	生徒の個性に合わせて寄り添った学習支援、生活支援及びキャリア支援等をより充実させるため、引き続き外部機関との連携の強化が必要である。生徒の高校生活の中で体験した「できる」を社会に発信するようなポートフォリオをつくることが生徒の自信につながり、さらには社会(企業・支援機関等)との接続にも役立てられると考える。コロナ禍が、要支援・外国につながる生徒への対応に影響しており、働き方改革の観点からも教員のリフレッシュできる時間の確保も重要である。
次年度に向けた改善の方向性	新型コロナウイルスによるパンデミックにより、ICT活用は加速度的に日本においても進み、文部科学省の推進するGIGAスクール構想もあり、学校教育現場においてICTの活用は不可欠となってきていることを踏まえ、学校経営計画にそった教育を展開することに主眼をおきつつ、令和4年度から中学校で一人一台端末による教育を実践してきた生徒が入学するための準備をしなければならない。また、支援が必要な生徒(特別支援、日本語支援等)に寄り添った教育の実践が望まれる。